

大分県書道 令和6年度前期 特別資格試験 課題

(令和6年7月28日必着)

種類	1、漢字条幅	2、楷書	3、行書	4、草書	5、隸書	6、篆書	7、随意	8、仮名条幅	9、仮名	10、調和体	11、実用書	12、硬筆		
用紙の大きさ	半切 (縦に使用)		半紙			半紙		半切 (縦に使用)	半紙 (料紙)	半紙		本会競書規格用紙 5・6年 中 一般用		
課題	窓下草深埋退筆 牀頭花盡臥空瓶		<p style="text-align: center;">松高氣拂雲</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>松高氣 拂雲</p> </div> <p>(半紙に二行に書く)</p>			県書道の課題以外の古典を臨書する。(五〜六字)		<p>笹の葉はみ山もさやにさやげども 我れは妹思ふ別れ来ぬれば</p>		遠花火グラスの氷鳴りにけり		<p>謹呈 うつとうしい梅雨もようやく明け、いよいよ本格的な夏の到来ですね。 このたび先生がめでたく全快された由、お喜び申し上げます。 (市町村名 姓名又は姓号)</p>		<p>ワラビの茎を手折る。瞬間、懐かしい野の香りを感じた。竹田市久住町の山野は、春先の野焼きを経てできあがった黒い土から、多様な植物が空に向かって葉を伸ばす。初夏の山は命のエネルギーに満ちていた (市町村名 姓名又は姓号)</p>
備考	窓下草深くして退筆を埋め 牀頭花尽きて空瓶に臥す (銭謙益)		松高くして気雲を払う (戴復古)			法帖名を受験票・出品票に書くこと。		<p>笹の葉はみ山もさやにさやげども 我れは妹思ふ別れ来ぬれば 柿本人麻呂(『万葉集』巻二・二三三 奈良時代)</p>		遠花火グラスの氷鳴りにけり (館岡沙織)		<p>① 行書で書くこと。 ② 各行の文字数や行数などの配列は、自分で考えて書くこと。 (大分合同新聞の記事より)</p>		